

日頃の備えを大切に

家族で話し合おう

ハザードマップを確認し、自分たちの住む地域の被害想定を知り、避難先、避難経路を家族で話し合っておくことが大切です。

ポイント1 どこへ避難するか

いざというとき、家族が一緒でなくてもそれぞれが素早く適切に避難できるように、避難場所と避難所を考えましょう。

避難場所

災害から身を守るために一時的に避難する場所

避難所

災害により自宅で過ごせなくなった際、一定期間滞在する施設

あわせてご利用ください!

避難カード

事前に避難先を決め、カードに記入しましょう。記入した情報を家族で共有し、カードは常に携帯しましょう。カードは県WEBサイトのほか、市町村や啓発の場で入手できます。



ポイント2 避難経路は安全か

家の周りに危険な箇所がないかを事前に確認し、地図に記入しておきましょう。

ハザードマップ

災害の種類別に作成されています。WEBサイトのほか、市町村などでも配布されています。詳しくは市町村にお問い合わせください。



(例:県庁周辺)

ポイント3 家の中は安全か

阪神淡路大震災の死亡者のうち最も多かったのが、家屋の倒壊等による圧死・窒息死でした。南海トラフで起こる地震も非常に強い揺れが予想されます。命を守るためには、住宅の耐震化や家具の固定などの対策が重要です。家の中の安全が確保できるか話し合ってください。

県では、住宅の耐震化などの対策を支援するための全国トップクラスの補助制度を設けています。(6ページで紹介)

電気の事故に注意!

台風が来る前に物が飛ばされないよう移動・固定する。

地震が起こったときはコンセントからプラグを抜き、避難時はブレーカーを切る。

台風や地震のあとは

水に浸かった電気機器は使わない。切れた電線に触らない。

助け合いで危機を乗り越える

自主防災組織

住民が協力し、平時や災害時にさまざまな防災活動を行うのが自主防災組織です。地域で互いに助け合うためにも、自主防災組織の活動は重要です。県では、自主防災組織や企業などを対象に、防災の中心的な担い手となる地域防災リーダーの育成に努めています。

地域防災リーダー育成講座

「紀の国防災人づくり塾」

県庁防災企画課 ☎073-441-2271 修了者には、防災に関して一定の知識・技能を有する「防災士」となるための試験受験資格が付与されます。

協力して避難

高齢者や障害者など、災害時の避難行動に支援を要する方を「避難行動要支援者」といいます。避難行動要支援者の方がスムーズに避難するためには、地域での協力体制が必要です。

地域で取り組めることは?

- 身の回りの防災環境の点検
- 車椅子でも避難路を通れるか
- 標識は外国人にも理解できるものか
- 目や耳が不自由な方への情報伝達方法はあるか

援助体制の決定

- 地域内の要支援者の把握
- 誰が誰の避難支援を行うかの検討検証

災害時の避難誘導、安否確認

- 日頃から知っている人たち同士で声を掛け合うよう心掛ける

持出品・備蓄品を用意しよう

避難するときにまず持ち出すべきものを防災リュックなどにまとめ、置き場所を決めておくことで、災害時に素早く持ち出せます。避難後は、救援を受けられるまで日数がかかることも予想されます。1週間程度の備蓄品を被災後でも取り出せる場所に保管しておきましょう。

チェックリスト(例)

～持出品～	～備蓄品～
<input type="checkbox"/> 非常食・飲料水	<input type="checkbox"/> 衣類・タオル
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ	<input type="checkbox"/> 軍手
<input type="checkbox"/> モバイルバッテリー	<input type="checkbox"/> 雨具
<input type="checkbox"/> 懐中電灯	<input type="checkbox"/> ライター
<input type="checkbox"/> ビニール袋	<input type="checkbox"/> マスク
<input type="checkbox"/> 救急医療品・常備薬	<input type="checkbox"/> 生理用品 など
<input type="checkbox"/> ティッシュペーパー	<input type="checkbox"/> 備蓄食料
<input type="checkbox"/> 安全器具(ヘルメット等)	<input type="checkbox"/> 備蓄水・風呂水
	<input type="checkbox"/> 毛布・寝袋
	<input type="checkbox"/> ナイフ・ハサミ
	<input type="checkbox"/> 卓上コンロ
	<input type="checkbox"/> 電池・自家発電機
	<input type="checkbox"/> キッチン用ラップ
	<input type="checkbox"/> 簡易トイレ・トイレトペーパー
	<input type="checkbox"/> ブルーシート
	<input type="checkbox"/> ポリ容器
	<input type="checkbox"/> 新聞紙
	<input type="checkbox"/> ろうそく・ランタン
	<input type="checkbox"/> ガムテープ
	<input type="checkbox"/> 洗面用具 など



避難所では...

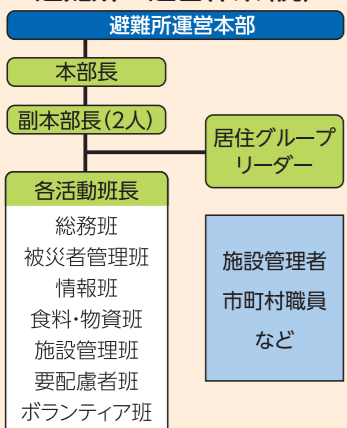
自宅で過ごすことが困難になった場合は、避難所で避難生活を送ることになります。慣れない環境での集団生活による心身のストレスも想定されるため、自身や家族の健康、衛生管理に気を配ることが大切です。新型コロナウイルスなどの感染症を予防するため、非常持出品にはマスクや消毒液も加えておきましょう。

また、円滑な避難所運営のためには、行政だけでなく、避難者が主体となった運営体制づくりが重要です。いわゆる「災害関連死(※)」を防ぐためにも、避難所のより良い環境づくりが求められます。

県では、避難所運営の担い手育成のため「避難所運営リーダー養成講座」の手引きを公開しています。各地域で活用いただき、一人でも多くのリーダー養成にお役立てください。

※災害関連死：避難生活などにおける体調や疾病の悪化による死亡。

避難所の運営体系(例)



きょうじょ 共助



災害時は、地域や近隣の人たちが協力して助け合うことが重要です。過去の災害でも、この取組によって多くの命が救われました。



松江地区防災会 会長 川口 敏夫さん

災害時、自分たちで命と町を守るには、地域の繋がりが必要です。繋がりは、子供の見守りや季節の行事といった日頃からの地域活動を通して培われるものだと思います。当地区では、この繋がりを活かして、避難、救出、消火など幅広い内容を織り込んだ大規模な訓練を年1回行っています。住民主体で企画・運営し、改善を重ねながら、より充実した訓練になるよう努めています。